

耕作放棄地を耕し、種を蒔く

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



**合同会社秋田里山デザイン
(男鹿市)**
代表社員 大西 克直

経営概況

作物 | だいこん、ミニトマト、ナス、
かんしょ、落花生、小豆等
15種類
構成員 | 2名
販売先 | イベントのみ(野菜)



さとやまコーヒー

大学在学中に、男鹿市でコーヒー豆を焙煎し、販売収益を活用して耕作放棄地を耕し、農業に参入した2人の若者がいます。2人はそれぞれ秋田県内の違う大学に通う学生でしたが、あるイベントにスタッフとして参加していたことをきっかけに知り合い、令和3年7月に里山再生のため、合同会社秋田里山デザインを興しました。

▶ きっかけ

バリスタ経験のある大西さん(東京都出身)は、国際教養大学に進学し秋田で暮らしながら自分のルーツのようなどころを作りたいと探していたところ、男鹿の自然や風景に魅了されました。

保坂さん(秋田県出身)は、県立大学で農業の勉強をしていましたが、現場を知るため休学し、男鹿市で借りた耕作放棄地で野菜作りを行っていたところ、イベント先で農業に興味のある大西さんと知り合い、意気投合し一緒に農業を始めました。

2人で農業をするうちに、耕作放棄地をこのままにはいけないといった気持ちが芽生え、里山再生のため「合同会社秋田里山デザイン」を興しました。令和3年10月に男鹿市へ2人で移住し今年で2年目を迎えました。



●里山再生のため、耕作放棄地の雑草を刈り取る2人

▶ 取組

同市の里山の耕作放棄地を再生利用するため、コーヒー豆の販売収益から、野菜の種を購入し、畑を耕し種を蒔き野菜を育てています。

同社は、「産地に足を運び直輸入～直販を行う」ことを掲げ、グアテマラやエチオピアで環境に配慮して栽培されたコーヒー豆を自家焙煎し、「さとやまコーヒー」のブランドで自社サイトや地域の協力店で販売しています。大西さんは買い付けのためエチオピアを二度訪問しました。



●「さとやまコーヒー」を飲むことで、コーヒー産地や男鹿市の里山再生に寄与できます

2人は、「農業は、農村の存続に大きく関わっているし、まちづくりだと捉えている。どうイノベーションを起こしていけるのかを考えながら、楽しんで農業をしていきたい。」と話します。



●耕作放棄地から畑に戻り野菜が収穫できるようになりました

▶ これから

「事業の地固めとしてコーヒー豆の卸先を開拓しつつ、耕作放棄地の復元面積の拡大と離農者からの農地等の引き受けにも取り組んでいきたい。ゆくゆくは男鹿の里山に人の流れを作るだけでなく、企業名のとおり秋田の里山を変えるような取り組みをしたい。」と、未来にも種を蒔いている2人です。



●今後を語る保坂さん(左)と大西さん(右)

(●印写真: 合同会社秋田里山デザイン提供)

